



『獣医師を目指す君たちへ』

中山裕之 著

2022年9月
東京大学出版会 発行
152頁
定価 2,970円 (本体 2,700円+税)

浅川満彦 (酪農学園大学)

前書(中山, 2019)は獣医学科に在学する学生を対象に、一方、本書は進路に迷う中高生向けとなり、刊行年の順序は逆だが、続編という体である。しかし、本書のスタイルは中山(2019)と全く異なり、それぞれの現場で活躍する獣医師に直接インタビューした内容を編んだものであった。したがって、臨場感があり、迫力のある読み物として純粋に楽しめ、獣医療現場の生々しいドキュメンタリー映像のごとき描写は獣医学徒・現役獣医師にとっても必ず何か得ることがあろう。獣医師の職域が広範なのは、我々の業界では常識であっても、身一つの獣医師自身、そのごく一部しか経験することしかできない。そして、どのような職域であっても、自分の守備範囲のみを把握しておれば事足りるということにはならないと思うし、肝心な墨守すべき場の発展性も望めない。なので、こういった異分野を仮想体験することは貴重となる。

さらに、本学会会員の多くは、きっと本書の副題「ワンヘルスを実現するキャリアパス」に目が釘付けにされたはずだ。ワンヘルスとは医学・獣医学・保全生態学の学際にある部分で、それを追及するサイエンスが保全医学、一方、獣医学に軸足を置きつつ、医学・保全生態学の重なり部分を標的にするのが野生動物医学である。さらに、こちらの方がより切実で重要なのだろうが、野生動物医学関連の職域が極めて限られている(以上、浅川, 2021)。このようなことからキャリアなる語は注目されるのである。

さて、本書で紹介された職種あるいは活動分野の数は計15、そのうち、狭義の野生動物医学関連とされるのはエキゾチック動物医療、動物園動物医療および野生動物救護であった。たとえば、野生動物救護では、本学会評議員でもある黒沢信道先生の活動が活写されていた。なお、各章題にはインタビュー対象者の実名も記されていた。ご存じのように、黒沢先生は野生動物救護を職とせず、生産動物の診療の傍ら、長年、この活動をされておられる。救護活動を真剣に志向する学生諸氏は、黒沢先生の生き方

はとても参考になるはずだ。同じく本学会評議員の成島悦雄先生が、動物園動物医療の実際を紹介されていたので、こちらも園館を志向する方は必読である。なお、本書は獣医療のほぼ全域をカバーしていたが、残念なことに水族館動物医療に関しては欠落していた。何となく動物園と水族館とは類似する印象があるが、両者は全く異なる考え方と技術が存在する。したがって、改訂版では、是非、水族館獣医師のインタビューを試みていただきたい。本書では、他に生産あるいは伴侶動物医療、(生産動物であり伴侶動物でもある)馬医療分野、食肉等食品の生産・販売、保健所(公衆衛生)および家畜保健衛生所(動物衛生)、国際獣疫事務局(WOAH)のような国際機関、人や動物用の薬品の創薬や安全性研究などが紹介されていた。そして、最終的にはワンヘルスに直接・間接的に関わることが示されていたので、副題は見事に成就された。

引用文献

- 浅川満彦. 2021b. 野生動物医学への挑戦-寄生虫・感染症・ワンヘルス, 196pp, 東京大学出版会, 東京.
中山裕之. 2019. 獣医学を学ぶ君たちへ-人と動物の健康を守る, 168pp, 東京大学出版会, 東京.